

令和4年度山梨大学医学部看護学科推薦選抜入学試験問題用紙

小論文 I

問 下記の文章を読んで考えたことを、あなたの体験をふまえて、600字以内で記述しなさい。

でも、日本人はなぜか「場の親密性」「満場一致」を偏愛する。だから、「理解しているふり・共感しているふり」が集団的に強いられるということが起きる。その結果、周りの人間が何を考えているのかわからないけれど、「わかったようなふりをする」技術ばかりにみんな熟達してゆく。

でも、「ふりをしている」だけですから、自分をほんとうに理解し、共感している人間は周りには一人もいない。いたら困る。まことに気持ちの悪いことですけれど、腹の中ではお互いに「自分のことをこいつらはまるでわかっていない」と思いながら、肩を抱き合い、頬を寄せ合って、「オレたち理解し合っているよね」と笑っている。

ほんとうに理解し合うことよりも、場の親密性が優先されている。横にいる人が何を考えているのか、これから何をやる気なのかということは一切吟味しないで、外見的に「親密であるふり」だけ繕おうとする。そういうことはあまりしないほうがいいんじゃないかと思えます。

日本の家庭はわりとそういう感じですか。それはよくないと僕は思う。過剰に親密さを誇示しないほうが家族は穏やかに暮らせるんじゃないかなと思います。

だって、家族というのは一過的な集団に過ぎないからです。全メンバーが揃って暮らすのは、せいぜい二十年かそこらです。だったら、その間だけとりあえず表面的に穏やかに暮らせればそれでいいじゃないですか。家族の誰かが困って支援を要するときには全力で支援するけれど、あまり「心の奥底」には踏み込まない……というような節度が保たれた、温度の低い家族だったら、その二十年くらいはわりと穏やかに暮らせると思います。

家庭が地獄になるのは、親が子どものことを理解していると思いついで、事細かにコントロールしようとするときと、子どもが親に対して「オレのことをもっとわかってくれよ！」という無体な要求をするときです。いずれも家庭はメンバー同士の相互理解と共感の上に築かれるべきだという信憑がもたらすトラブルです。

でも、現実には、親は子どものことがわからないし、子どもは親のことがわからない。そっちのほうが「ふつう」なんです。その現実を踏まえて、「では、どうすれば少しでも理解が深まるか、気持ちに共感できるか」について努力する。でも、そんなにまじめに努力しなくてもいいと思えます。家庭内に「完全な理解」というようなありえない目標を掲げて、日々わが身を減点法で採点するというようなストレスフルな生き方はしないほうがいい。どうしても「したい」というのなら止めませんが、疲れますよ。いいじゃないですか、完全な理解なんかに達することができなくても。なかなか人と人というものはわかり合えないものであるなあ、と諦める。それでいいと思えます。

令和4年度山梨大学医学部看護学科推薦選抜入学試験問題用紙

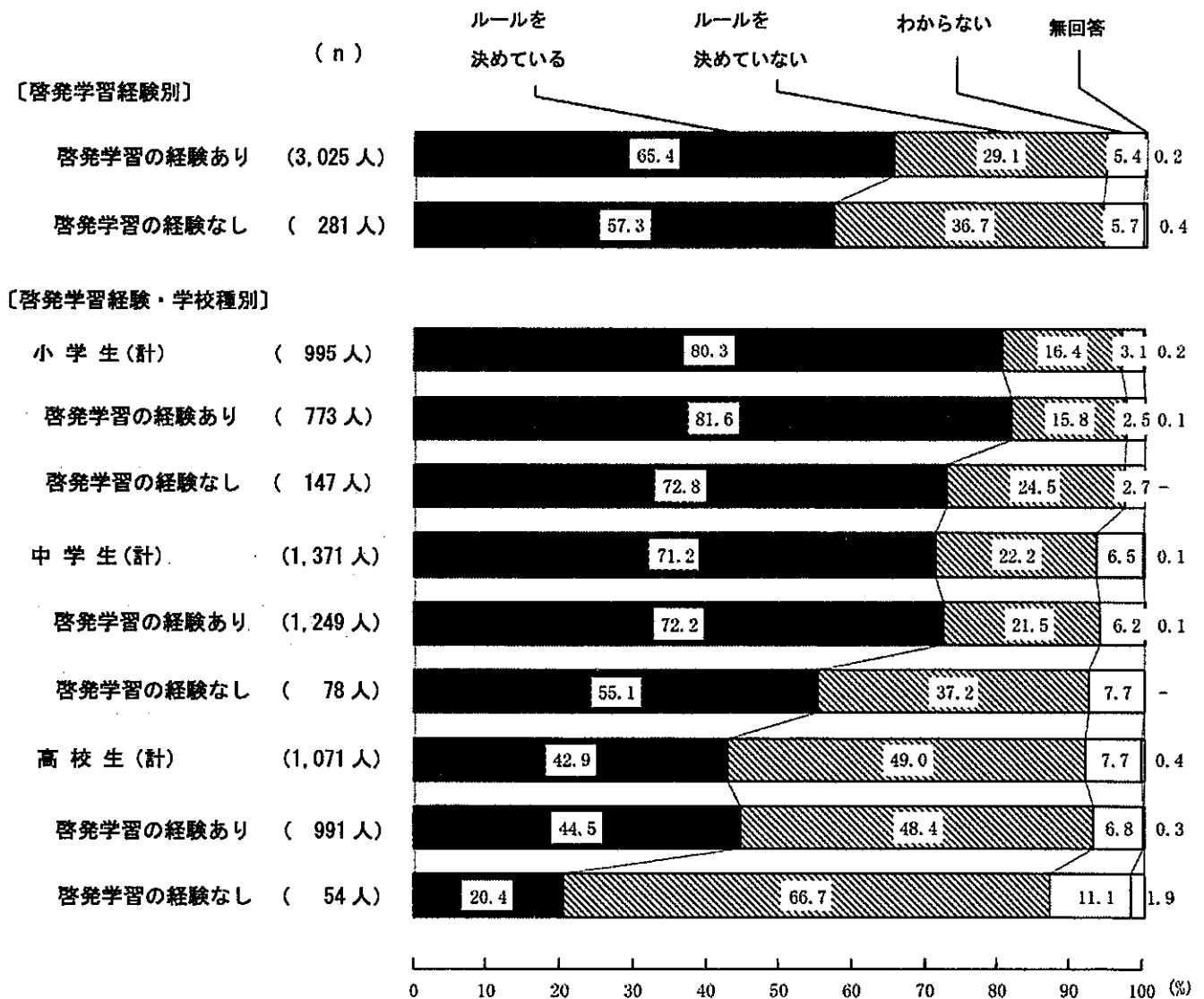
小論文Ⅱ

この図は、内閣府が「インターネットに関する啓発学習経験の有無と家庭内のルールの有無」について学校種別毎の青少年に調査した結果です。以下の問いに答えなさい。

【問1】図から読みとったことを100字以内で記述しなさい。

【問2】この図からどのようなことを考えますか。500字以内で記述しなさい。

図 家庭内のルールの有無（啓発学習経験・学校種別）



出典：内閣府「令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」(PDF版)
<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r02/net-jittai/pdf/2-1-1.pdf>
 (取得日 2021.10.18)

受験番号	UM
------	----

令和4年度山梨大学医学部看護学科推薦選抜入学試験

小論文Ⅱ 解答用紙

問1

注) 横書き 100字

問2

注) 横書き 500字

評点	
----	--